



鈴木 朝英 先生揮毫

事務局 札幌市西区西野
7条2丁目1-2
齋藤 彰 方
TEL 090-3773-8824

発行責任者
会長 竹 田 正 直
北大教育学部同窓会

部局構成員の変化と 部局や大学の動向



教育学研究院長・教育学院長・教育学部部長

小 内 透

教育学研究院長・教育学院長・教育学部部長・教育学部部長に就任して四年目になりました。この一年間様々なことがありました。部局や大学のこの間の動向についてご報告申し上げます。

まず、大学院教育学研究
院・教育学院・教育学部所
属の教員の動向についてお
伝えします。本年三月末を
もって、間宮正幸特任教授
と姫野完治准教授が辞めら
れました。間宮特任教授は
定年後二年の再雇用期間を
終えて退職されました。退
職後は、小樽に本部がある
「共育の森学園」理事長と
して学校法人の運営に関わ
られています。姫野准教授
は北海道教育大学札幌校の
教職大学院の准教授となら
れました。お二人の先生に

は在職中、教育・研究・管
理運営に尽力していただき
ました。この場を借りてお
礼申し上げます。

一方、新たな教員や昇任
された教員はおりませんで
した。新聞でも報道された
ように、昨年八月に大学執
行部から大幅な人件費削減
方策が提案されたためです。
その方策の結論がでない状
態が続いたため、教員の新
たな採用や昇任が全学的に
ストップしてしまいました。
この問題について詳しくは、
後述します。

大学院教育学院所属の先
生にも異動がありました。
残念なことですが、二月三
日に眞崎睦子准教授（メ
ディア・コミュニケーションシ
ョ
ン研究院）が病気のため急
逝されました。享年五五歳
でした。眞崎准教授は生前、
教育学院多元文化教育論講
座に所属し、院生の教育に
従事されました。この場を
借りて、ご冥福をお祈りい
たします。三月末には齊藤
美香講師（保健センター）
が札幌学院大学の准教授に
就任するため退職されまし
た。在任中は教育学院臨床
心理学講座に所属し、院生
の教育、とくに臨床心理士

北海道大学 ホームカミングデー 2017

主催 北海道大学 共催 北海道大学校友会エルム
会場 北海道大学 札幌キャンパス（クラーク会館他）
日時 平成29年9月30日（土）
9:50 交響楽団による演奏 「都ぞ弥生」「永遠の幸」
10:00 歓迎式典

10:20 歓迎式典
ご挨拶 北海道大学総長 名和 豊春
ご挨拶 北海道大学校友会エルム会長 石山 喬

11:05 学生による活動報告
（予定）新渡戸カレッジ、スクール学生等
教授

11:20 歓迎ステージ
北海道大学民謡研究会合唱団わだち
11:32 「都ぞ弥生」斉唱

司会 北海道放送株式会社 船越ゆかり コンブライアンズ室兼番組審議会事務局長シニア
マネージャー

文系四学部共同開催公開シンポジウム

会場 14:00～16:30 W棟（軍艦講堂隣）103号室
テーマ 「芸術フロンティア北海道」
パネリスト 川上佳津仁 氏（1983年北大経済学部卒、札幌市立大学 事務局長）
「札幌の文化芸術」
三浦 洋 氏（1997年北大大学院文学研究科博士課程修了、北海道情報
大学情報メディア学部 教授）

司会 「北の音楽シーン」
早川 渉 氏（東海大学国際文化学部 特任講師）
「北海道スタイルの音楽制作とは」
北村 清彦 氏（北海道大学大学院文学研究科 教授）

H29年度北海道大学教育学部同窓会総会・懇親会
日時 平成29年9月30日（土） 16:45～17:15
会場 軍艦講堂1番教室
四学部合同懇親会 17:30 中央食堂2階
会費 3,000円（同伴家族は2,000円）
連絡先（幹事） TEL 090-3773-8824 齋藤 彰（1980年教育行政卒）

同窓会名簿発行延期のお知らせ

昨年の会報でご案内した同窓会名簿は、予約数が予定に足りなかったために発行を1年延
期して、再度予約の受付を致します。（詳しくは17ページのお知らせをご覧ください。）

養成コースの教育に貢献していただきました。改めてお礼申し上げます。

続いて、部局や大学の動きについて、お知らせします。本年四月から、本部署所属の大塚吉則教授が国際食資源学院の教授に就任されました。国際食資源学院は、国際感染症学院、医理工学院とともに今年度から新設された大学院教育組織で、いずれも様々な部局の教員が参画する形で作られました。大塚教授は教育学研究院に所属しながら、国際食資源学院でも食育に関わる分野の教育に従事しています。同時に、経過措置として、教育学院健康教育論講座の院生指導も引き続き行っていたいでいます。今後も、同じような形で、本部署(教育学研究院)所属の教員が教育学院以外の大学院教育組織の教員となる可能性があります。

現代日本学プログラムは、外国人留学生を対象とした四年間の新しい文系の学士課程プログラムです。本プログラムは、現代日本の社会や文化に関心を持つ留学生に対して、日本語教育を重点的に行うことにより、国際社会において日本の真実により活躍するグローバル人材の養成を目的とした教育プログラムです。二年生までは専門教育を受けずに、三年次以降文系の各学部の専門科目を受講することになっていました。数は少ないものの、教育学部の専門科目を受講する学生がおります。これらの学生は、中国出身者が多かった従来の留学生とは異なり、出身国が多様になっていきます。

全学的には、今年度から、理系の外国人留学生を対象にしたIntegrated Science Program (ISP) が始まりました。ISPは学士課程のプログラムで、英語だけで卒業に必要な授業と単位が履修・修得できる仕組みになっていきます。これまで、このプログラムの設置に向けて、独自の予算を獲得して新たな外国人教員を

採用してきました。さらに、二〇一八年度から国際総合入試も導入されることが決まっています。グローバル人材の育成のため、国や地域、学問分野をこえたボーダーレスなグローバル社会を生き抜き、リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜する入試です。総合入試文系五名、総合入試理系一〇名の定員で、入学後は他の学生とともに総合教育部に一年所属した後、二年次から各学部に移行する仕組みです。今後、国際総合入試で入学した学生が教育学部にも移行して行くことになり

ます。昨年の同窓会便りでも紹介したように、一昨年から開始され、昨年から本部署でも開始したサマー・インステイテュートも引き続き実施しています。今年七月一八日から二二日の日程で開催され、社会教育学(Social Pedagogy)を専門とするアメリカ合衆国とフィンランドの研究者を招聘し、英語での授業を行っていただきました。一五名の教育學院の院生と中国、韓国、フィンランド等から

の一七名の院生(短期留学生等)が参加しました。学部生向けに二〇一一年から始めたESDキャンパスアジア・パシフィックプログラムの(北大プログラム)も、北大教育学部生と中国、韓国、ロシアの学生合わせて三三名の参加のもと、七月二〇〜二八日の日程で無事終了しました。このプログラムも、すべて英語によるものです。今後、北大教育学部生がESDプログラムに参加している海外の大学へ行き、英語での授業を受講することになっています。その際、本部署の教員も同行し、ラーニングサテライト事業として、それぞれの大学で授業を行う予定です。これまで紹介してきた北大全体または部局での様々な取り組みは、新渡戸教育システムとともに、いずれもスーパーグローバル大学事業を中心にした大学の国際化に向けたものです。これらの取り組みが、大学全体の国際化(外国人留学生、外国人教員、英語による授業等の増加)を推進する上で、大きな役割を果たしています。

国際化の取り組みが進められる一方、大学の運営そのものはきわめて厳しい状況に直面しています。大学の基礎的財源としての運営費交付金が毎年減額されているからです。そのため、研究や教育の両面にわたって競争的な資金を確保することに腐心しています。上述のような様々な教育の国際化の取り組みもその一環として進められている面があることも否定できません。日本政府は、今後とも国立大学の基礎的財源を減少させ、大学が自己努力によって外部資金を獲得し、財源を確保するよう促しています。

このような状況を背景として、昨年の八月、大学執行部が今後五年間(第三期中期目標期間中)に一四・四%、教授ポスト二〇五人分の人件費削減の提案を行いました。この案に従うと、本部署(教育学研究院)では教授五人分の削減が必要になります(昨年八月時点の現員は特任教授一、教授一四、准教授二三、助教・助手五)。これについては、本部署も含め、各部局から様々な意見や要望が出され、一月には人件費削減率を

針が存在します。その意味で、今回の北大で生じた人件費削減問題は、すべての国立大学法人が抱えている課題であるといえます。

なお、六月には大学改革支援・学位授与機構から「国立大学法人等の第二期中期目標期間における教育研究の状況の評価結果について」が公表されました。

これによれば、本局は、研究面で「期待される水準を上回る」、「改善、向上している」、「教育の面で「期待される水準にある」、「質を維持している」との評価結果になりました。第三期中期目標期間では研究面での高い評価を励みに、研究水準の更なる向上と、教育面でのより一層の改善の努力を続けていこうと考えております。

最後になりましたが、昨年度、本局の研究院長・学院長・学部長の任期に関する規定を改定しました。従来は、「一期二年、原則一期」という内容でした。これを「一期二年、連続して二期まで」と変更し、任期を明確にしました。そのため、今年度末で私の任期が満了になり、研究院長・

学院長・学部長のポストを後進に譲ることになります。四回にわたり執筆してきた同窓会便りでの報告もこれが最後となります。これまで、様々な支援を頂いた同窓生の皆様に、この場を借りて、お礼申し上げます。今後とも、北海道大学教育学部・教育学院・教育学部に対するご支援を賜りますよう、お願いいたします。

文系合同シンポジウムの成功



北大教育学部同窓会会長

竹田 正直

一、会費納入増と昨年の企業へのお礼

北大教育学部および大学院の同窓生の皆様、ご清祥にてご活躍のことと思えます。

去る六月二〇日(火)午後六時から、北大遠友学会で行われた北大教育学部同窓会役員会での齋藤幹事

長からの報告によれば、同窓生の会費納入人数が増え、会計もかつての赤字を克服し、今年度の会報を発行しても若干の余裕があるところまで回復したそうです。ここ数年の会費納入のお願いに応えて下さり誠に有難うございます。心から御礼申し上げます。

とはいえ、同窓生のうちご逝去された方等を除き、住所のはっきりしている方々への会報発送数は、一、八五〇名(全同窓生の約半数弱)で、そのうち、会費納入数は、年度による違いはありますが、およそ二〇〇名から二五〇名とのことです。つまり、会報をお届けしている方の約一三%の納入です。この一三%の方々の協力で同窓会が運営されており、今後ともより多くの同窓生に会費納入をお願い致します。

とくに、あと二年、二〇一九年には、教育学部創立七〇周年を迎えます。記念事業の企画は、学部・学院の意向を伺いながら今後検討することですが、何を考えるにも一定の財政を必要としますので、基礎財政の強化にご協力下さい。

北海道大学が、毎年九月の最終土曜日にホームカミングデーを開催して、同窓生のみならず北大に来ていただくことになり、教育、法、経済の文系四学部・同窓会は、当日午後二時から「文系四学部共同開催公開シンポジウム」を行ってきています。

昨年(二〇一六年)は、教育学部同窓会の当番で、小内透学院長・学部長と緊密に連絡をとり企画をすすめ、「地域を創造する人育て」をテーマに、提言者として次の三氏にお願いし、内実豊かな提言がなされました。

- 「産業を支える人育て」 北海道銀行頭取 笹原晶博氏(教育学部二七期卒)
- 「生活を支える人育て」 コープさつぽろ理事長 大見英明氏(教育学部三期卒)
- 「学びを支える人育て」 北翔大学元学長、札幌遠友塾自主夜間中学代表 遠藤知恵子氏(教育学部三期卒)

実施、参加者も一一名と大きな成功を収めました。三氏と学部の方々と参加くださった方々に深く感謝致します。詳細は後述します。

二、今年の九月三〇日(土)の企画

今年の「文系四学部共同開催公開シンポジウム」は、教育学部同窓会の当番で、以下のテーマと提言者で行われます。テーマ「芸術フロンティア北海道」

日時 平成二九年九月三〇日(土) 一四:〇〇
場所 人文・社会科学総合教育研究棟(W棟) 一〇三室

司会 北村 清彦 氏(北海道大学大学院文学研究科、教授) パネリスト 川上佳津仁(かずひと)氏(札幌市立大学、事務局長) 「札幌の文化芸術」

三浦 洋 氏(北海道情報大学情報メディア学部、教授) 「北の音楽シーン」 早川 渉 氏(東洋大学国際文化学部、特任講師) このような「芸術フロンティア北海道」というテーマ

マの背景にオペラ・バレエホールを札幌に新築中など「文化芸術」にかんする多面的な蓄積と発展があり、さらに未来への展望が語られると期待されます。札幌市の姉妹都市の一つ、ロシアのノボシビルスク市のオペラ・バレエ劇場にヒントを得て建築された音質の良い札幌音楽堂キタラに全世界から著名な音楽家が強く希望して演奏にきています。札幌交響楽団の永年の蓄積や世界の若手音楽家育成のPMFの発展、特に今年から連続三年間ロシア・サンクトペテルブルグのマリンスキー劇場総裁の世界的指揮者ヴァレリー・ゲルギエフ氏がPMFの指導者になっていきます。

ぜひ、共同開催公開シンポジウムとその後の総会と懇親会に音楽文化やスポーツ文化、アイヌ文化の発展の一翼を担ってきた教育学部同窓生からもふるってご参加下さい。 昨年の私たち教育学部同窓会の当番シンポジウムの折も他学部同窓生の沢山の来聴者がありました。出席者一一名のうち、教育学部同窓会関係は四二名で一

番多かったです。ついで文学部二九名、法学部二三名、経済学部一七名と他学部合計が六九名でした。

三、北大校友会エールのランチパーティー

なお、全学の行事は、平成二九年九月三〇日(土)午前九時五〇分からクラーク会館で始まり、一時三分終了です。全学の「歓迎式典・記念講演会」は、交響楽団による演奏「都ぞ弥生」「永遠の幸」にはじまり、北海道大学総長名和豊春氏と北海道大学校友会エール会長石山喬氏の歓迎挨拶、白土博樹北海道大学大学院医学研究院教授の記念講演会、学生による新渡戸カレッジと七大戦活動(体育会系学生団体)の報告、北海道大学民謡研究会合唱団「わだち」の公演、「都ぞ弥生」斉唱です。これまででは、入場の際、アンケートに答えると北大のバックなどいろんなプレゼントがありました。ふるっご参加下さい。

その後、北海道大学校友会エール(石山喬会長、日本軽金属ホールディングス(株)相談役、前同社会長)主

催のランチパーティー(会員一千円、一般二千円)が百年記念会館大会議室であります。

北海道大学校友会エールは、昨年、それまでの北大連合同窓会を発展的に改組して、新しくなった全学同窓会です。これまでと大きな違いは、北大に入学した一年生から終身会費二万円を入会時に払い会員になることができずし、現職及び以前の教職員や、大学院生はもとより研究生など、さらには保護者も含め会員になることができます。その分、在学生の教育・留学や教職員の研究・研修への支援が一層強化されます。各学部同窓会や地域同窓会は、校友会エールの基礎同窓会となりますので、すでに、学部や地域の同窓会に加入している同窓生は自動的に会員となります。

ホームカミングデーでのランチパーティーは、例年、会費以上の内容と評判ですが、校友会エールからの財政支援があるからです。学部同窓生は校友会エールの会員でもありますから、ぜひ、ランチパーティーにも沢山参加して下さい。豊かな異業種交流の場ともなっています。九月二十五日まで氏名、卒業学部、卒業年度を明記して、メールかFaxで申し込みますと名札が用意されます。石山会長のほか名和豊春北大新総長も出席されます。

もちろん、学部同窓会を通じて、或は、校友会エール事務局に直接申し込んでご自分のメールを校友会エールに登録し情報を得ることもできます。

校友会エールの総会は各基礎同窓会などから一名の代議員と理事などの役員で構成されますが、教育学部同窓会からは、代議員に齋藤彰幹幹事長、理事に会長の竹田正直が出ております。また、理事会をサポートしている四つの委員会委員には、國安保氏(㈱アイワード部長、昭和五九年卒、三期)と浅川和幸氏(教育学院教授、昭和六〇年卒、三三期)のお二人が協力してくれており、國安氏は、専門を活かして広報・情報処理委員会委員長として重職を担って来ています。

國安委員長は、校友会エール事務局長浅野賢二氏(北大事務局総務企画部次長)

ら優秀な事務局スタッフと協力して、早速、今年度の新人生への広報活動を準備したり、全国地域同窓会(海外も若干あり)とのテレビ会議システムの構築等を行ってまいります。

四、二〇一六年の文系合同シンポジウムの概要

前述のように、昨年の「文系四学部共同開催公開シンポジウム」を、二〇一六(平成二八)年九月二四日(土)に行いましたが、以下に概要を紹介致します。学内の人文・社会科学総合教育棟(W棟)一〇三室で、午後二時から四時三〇分まで行われました。開会にあたり山口佳三総長、竹田正直教育学部同窓会長・名誉教授、小内透大学院教育院長・教育学部長から、夫々、挨拶がありました。前半、三氏の提言終了までの司会を小内学部長が行い、質疑・討論の司会を竹田が行いました。

(1)「地域を創造する人育て」の視点から」のテーマで北海道銀行頭取の笹原晶博氏(教育学部二七期卒)

が、詳細な投影資料を用いて提言いたしました。

1)「道内産業の」人育てを巡る環境」。

北海道の人口動態が、二〇一五年の五三六万人から二〇二五年には四九六万人へ減少予測があり、労働人口の減少と高齢者増で再生産力が低下する中で、「しごと」と「ひと」の好循環の確立を提言。道内の名目GDP一八兆円だが、域際収支は二兆円の赤字で、これを黒字にするため、地域外資金(外貨)の獲得と自給率向上を提言。道の産業特性から「地域創造」への可能性は、「食関連」「観光」「エネルギー」「ものづくり・IT他」とし発想の転換と仕組みづくりを提言。

2)「課題解決に向けた産業を支える人育て」の観点」では、二〇一五年の起業家率は全国五・二%に對し道内四・二%で官公需の脱皮と若手流出阻止のために起業家の支援を提言。

二〇〇人育成。さらに、道内四高専と提携し、企業体験交流や高専での企業説明で五年間に一二〇人を道内企業が採用。外貨を稼ぐために台湾、ベトナム、インドネシアの銀行と提携して道内企業の進出支援。特に、ロシア極東地域では、ユジノサハリンスク、ハバロフスク、ウラジオストク、サハ共和国での野菜温室栽培進出を永年支援。輸出支援や海外派遣人材育成、「カイゼン」(コスト削減、品質向上、納期短縮)ニーズへの対応コンサルティング。そのための道銀内での人材育成(若年・中堅、中堅・主任、管理職・経営職) + 個人スキルアップ研修を実施。道銀は「この手で生きて行く、北海道とともに、元氣な企業のために、支えるのは人材、学校でも、地域でも！」を述べて提言を終わりました。

(2)「生活を支える人育て」

コープさっぽろ理事長 大見英明氏(教育学部三〇期卒)

やはり、数々の投影資料を用いての詳細な報告・提言でした。



1) 「コープさっぽろ事業の紹介」では、二〇一五年全道二七三・八万世帯にたいし組合員が一五九・六万人で、五八・三%の世帯が組合員で、二〇一六年三月で正規職員二、〇二六名、契約社員一、一三〇名、パート・アルバイト九、六七〇名、出資金六四〇億円、総事業高二、六七九億円の経常剰余金五八億円、自己資本比率二〇・八%等を紹介。供給高も剰余も二〇〇二年から右肩上がり。全道一〇八店舗、近年の宅配(とドック)が三二万世帯七五二億円と順調。今後七、八年で五〇万世帯へ。

2) 「コープさっぽろ五〇周年から(二〇一五年)」では、岩手の生協活動、東京の医療生協などの経験をもち新渡戸稲造氏が、昭和六年遠友夜学校へきて、「学問より実行」「人の為になるように」と述べた時の事務局長高倉新一郎氏が後に北大生協法人化の初代理事長に。北大生協から地域生協「コープさっぽろの創立(一九六五年)」へと続く。その後、発展と挫折(二回の資金ショート)を経験し、日本生協連の支援と身の丈にあった経営へのリストラも実施。五〇周年を契機に「三つをつなぐ…人と人、人と食、人と未来」をモットーに「北海道に貢献する」「問題解決型組織へ」のため、「スピード・実践と事実・最先端に学ぶ」を付加。公的でも私的でもない「第三セクター」として、

①資本より人間優先、②教育と訓練による人間の発達を重視、③自由意思による結合、④民主的な運営、⑤自立とシズンシップ、を基本目的とする。社会目標を追求する過程で総費用を回収する「ソーシャルビジネス」

(ムハマド・ユヌス氏、二〇〇九年北大)をめざす。3) 「コープさっぽろの教育」。幹部育成教育、経営トップ教育(国際共同組合サミットなど)、職員教育(組合員の声、カイゼン、おもてなし)、まとめとして二つの提言、第一に、「ソーシャルビジネス」社会的(貢献)事業の開発。例えば、給食事業、高齢者の安否確認事業、子育て支援等、これらのために宅配職員も意識するが民生職員として二〇人いる。これを一〇〇人体制にしたい。第二に、コープさっぽろの実体経済の中の新しい価値創造。例えば、環境リサイクル、コープさっぽろ農業賞(農業振興)、医療連携等。

③「学びを支える人育て」基礎教育をすべての人に「北翔大学元学長、札幌遠友塾自主夜間中学代表遠藤知恵子氏(教育学部三〇期卒)」

「はじめに」では、①「生きている」は学ぶこと、②生きていく上で不可欠な基礎教育、③「学びを支える人」とは、狭義には、教員や研究者、広義には、学びは人と人との関わりの中にある。

③「学びを支える人育て」基礎教育をすべての人に「北翔大学元学長、札幌遠友塾自主夜間中学代表遠藤知恵子氏(教育学部三〇期卒)」

1) 人権(生存権)としての学びを保障する夜間中学。①日本における未就学者は二〇一〇年の国勢調査で一、二八、一八七人と変わっていますが、実際には七〇万人とも八〇万人とも言われています。②公立夜間中学は二〇一五年三二校、一、九五一人と少なく、首都圏と関西に偏在している。受講生の七〇八割は外国人。③北海道では二〇一〇年調査では未就学者七、三七四人(女性六三%)で全国二位。地域的特性や歴史的背景あり。

2) 札幌遠友塾自主夜間中学。新渡戸稲造の「遠友夜学校」の理念を受け継ぐ。一九九〇年に「学びたい人が生きることのあかしと喜びを見出せる場、仲間とともに楽しく学べる場」をめざして「自主夜間中学札幌遠友塾」を開設。毎週一回、夜五時半〜九時半(はじめの会、五〇分×二コマ、二教科、年間約四〇日)教科は国語、数学、英語、社会、その他…特別授業、遠足、社会科学見学、クラス発表会、忘年会)。四クラス(一〜三学年、じっくりクラス)、HR、掃除、スタッフミーティング。必要経費は資料代、施設使用料、活動費、受講生は毎月千円、公費助成はなく、協賛会員や企業支援金で運営。スタッフはすべてボランティア。現在、受講生五二人(二〇代から九〇代、六〇〜七〇代が半数で戦後の混乱と貧困で未就学)、スタッフ七五人。受講生の例では、Aさんは東京でホームレス、知的障がいもあり、塾が居場所となったが、Bさんは不登校であつたが、いま室蘭から休まず来ている。CさんとDさんは妹と兄で、無国籍できて、ようやく国籍がとれそうになり履歴書がかけないので学んでいる。

スタッフの属性と役割。退職者、主婦、現職若手、原則毎週水曜日、夜の授業と月一回の全体会議への出席。教材検討、塾運営、学級運営などに常に関わりおこなう。受講生とスタッフの関係は横並びの関係。生活に役立つ知識、学び方を学ぶ、将来の進学や就職へ、新たな社会関係の構築、居場所づくり、成人基礎教育をめざす。学ぶ喜びと自己実現。

3) 憲法の保証する「学習」の実現に向けて「基礎教育をすべての人へ。①「北海道に夜間中学をつくる会」二〇〇七年。②法制化の動きがあり各都道府県に二校の公立夜間中学開設では合意が見られる。③夜間中学の全国的連帯。④基礎教育保障学会の設立(二〇一六年)。

を反省し、既存の概念を一回否定してチャレンジする

大見氏…開拓時代に世界から七〇人の技術者を受け入れ、その三分の一が北海道へ来ています。北欧と同じく、自立して何が必要かを自分で考えることです。北海道に来て北大から道庁に入って、上がりではなく、他の国を知るために世界に出てゆくことです。中国の急速な発展、また、北欧では人口が少なくとも、ITやオートメーションによる豊かさがありません。外国を知って北海道を第三者的に見ることが出来る人です。

2) S氏、経済学部卒…町内会長をしています。町内会やデーターサービスなど社会的なことへの貢献をどう考えていますか？世代間のギャップが大きく、生産者世代と年金者世代、マンションと戸建入居者のギャップ、生協も共同購入から宅配へと変化しています。

大見氏…世代間ギャップはすごいです。若い人たちは、生活が厳しい。年金生活者は化学肥料のないものを要求しますが、若者は安いものを求めます。宅配で高齢者組合員の異変が起こり緊急出動することもあります。司会…具体的事例や対応について教えてください。

大見氏…おじいさんが玄關で血をだして倒れていたたり、おばあさんがトイレで動けなくなっていたなど四〇件ほどありました。民生委員のような人が二〇人います。将来は一〇〇人にしたと思います。

のを求めます。宅配で高齢者組合員の異変が起こり緊急出動することもあります。司会…具体的事例や対応について教えてください。

大見氏…おじいさんが玄關で血をだして倒れていたたり、おばあさんがトイレで動けなくなっていたなど四〇件ほどありました。民生委員のような人が二〇人います。将来は一〇〇人にしたと思います。

3) N氏、教育学部卒…恵庭市役所に勤務し、同僚と一緒に地域の活性化に取り組んでいます。全国的には東京への一極集中、北海道では札幌への一極集中の中で、「地域創世」への北海道銀行の取り組みを教えてください。

菅原氏…道銀の全支店に、商店街の一員として地域の行事に積極的に参加するよう徹底しています。「地域創生」には、一七九自治体

が計画し今年から実行に入ります。地域の活性化にとって大事なことは、第一に、仕事があり、産業、企業が発展し、所得水準が上がることで、第二に、自分の地域の良さを探り出すこと、第三は、主体となるのは自治体でも、銀行でもなく、その企業や人々、ということ。銀行はサポートしますが規制もあります。N氏…恵庭市は花の街ですが、花の街づくりは市民が行っています。司会…恵庭市はたしかに美しい花の街ですが、行政は何かしてないのですか？ N氏…すべて市民が行っています。五名の同窓生が市民として参加しています。4) K氏、文学部卒…アイヌ語を研究し、アイヌの人々の生活に学んで遠軽郊外へ山小屋を作って生活しています。質問の第一は、子どもたちはスナック菓子を出すように買って食べていますが、小さな町での食育はどうすべきでしょうか？質問の第二は、遠藤さんが紹介してくれました夜間中学受講生の詩の朗読は、自分の詩なのにとどどしかったのはどうしてですか？

遠藤氏…先程朗読を紹介したおばあちゃんは八〇歳で、機能障がいがあるようですが、確認していません。私たちが学習しなければならぬことが沢山あります。

菅原氏…私は、明日、遠軽

に行きますので良く見えます。遠軽も花の街です。大見氏…ギャップは勉強になりました。

司会…時間がまいりましたのでこれで終わりますが、小内学院長から一言お願いします。小内学院長…今日のシンポジウムによって地域の現実が一層よく分かりました。提言くださった三人の方々ご参加の皆さまにあらためてお礼申し上げます。

(追記)当初の企画では、道外で活躍する女性の同窓生をふくめ男女二名づつの提言者を考え、お願い致しましたが、ご多忙のため実現出来ませんでした。また、以上の概要は、録音によるものではなく、投影および配布資料と、司会をしながらの筆者のメモおよび記憶によるもので、とくに、質疑・討論の部分に関しては、正確さを欠く表現もあるかと思いますが、何卒ご海容ください。最近知った川柳「老いるとは 増える薬と減る記憶」。今のところ、薬は、朝一錠のみです。以上

今は昔 (三)

逸見 勝亮

一九六六年卒、教育史比較教育

◇二〇一七年度も、学外研究員として北大大学文書館(クラーク会館西側、旧留学生センター)へ通っています。外見はともかく、生活振りは相変わらずです。文書館の隣にある北大保育所「ともに」の子ども達が遊び相手です。

◇二〇一六年七月以降に、出会った卒業生の方々の名前と出会った場所を、概ね出会った順番に記してみました。

井上高聡・山本美穂子(大学文書館、二人は文書館職員なので毎日)、佐々木貴文・新井直子・相内佳織親娘・白取道博・山田敏之・西田麻子親娘・松本斎・辻英之・三上基子(大学文書館)、小川正人(学会)、明神勲・岡野正・安藤豊・桑原清・所伸一・塚本智宏・池田裕子・山口ア

ンナ(竹田さんを囲む会)、竹下忠彦・山本登志美・大内八代以(カデル2・7)、大谷薫(ミニ大通)、松林玲

子(三越)、津野田亮子・清水紀秀(東急ハンズ)、佐藤昭宏(むすびめ)、朴仁哲・高橋俊郎・上田敦・村田明日香・松田めぐみ親子(学内)、奥田利恒(北大オケコンサート)、松本貞樹(室蘭)、佐藤修二(札幌駅辺りで時々)、高田康一(北五条通・四条通りで時々)、荻原克男(シアターキノ)の皆さん。田中稔久さんが文書館へ立ち寄ってくれたときに、僕は図書館書庫におり、会えずじまいでした。

以下は多少の補足です。二〇一七年五月九日に、札幌市中央区芸術祭のお茶席を見学した折りに、茶筌の優雅な動きと和服の着こなし、朝鮮の茶碗に見とれていたら、お茶を点でている女性とふと目が会いました。何と三三年振りの山本登志美さんでした。お茶の先生に「どのような関係」と問われ、僕は「同級生です」と応じました。先生はその旨奥へ伝え、「同級生っていうから誰かと思っただら」と顔を出したのが大内八代以さんでした。

高田康一さんとは七月二八日午前に、荻原克男さん



とは同日夕方方に遭遇。二人に会ったのは偶然に過ぎませんが、僕がウロウロしている故でもありません。僕が観たのは「トトとふたりの姉」です。

ついでながら記せば、僕の歯を検査・治療している歯科医師は、三〇年ほど前に教育学部幼児園を卒園した方！

◇最近朝の番組で見かけなくなった向井一弘（NHKスポーツニュース担当アナウンサー）さんは、担当番組が変わったのでしょうか。

加藤訓子がバッハの無伴奏チェロ組曲・無伴奏ヴァイオリン・ソナタをマリンバ演奏用に編曲し、録音し

たCDを時々聴いています。新聞で知ったCDを求めたのは、増渕俊文さんが教育行政ゼミ室でマリンバを、とても上手に弾いたのを思い出したからです。

「さわやか自然百景 掛川丘陵」（NHK総合、二〇一七年一月八日）を観て、戸塚雄二さんへ「観た」と便りしました。茶畑の間の草地（茶草場）とそこに住む昆虫・蜥蜴・野鳥、刈った草を敷き保温・肥料に利用しているという、掛川丘陵の四季を映していま

した。僕は、小学校四年生か五年生の音楽の授業で教わった「光る霜だよ、茶の花に、目白が来る山、お茶

の山、だれかおとりを、なかしてゐる、チツキ寒そに、なかしゑる」、掛川出身の戸塚雄二さん、戸塚さんとヘビメタ・プロレス繋がりが多かった戸田博文さんを思い出したのでした。ちなみに茶（チャノキ）は、秋から初冬にかけて三センチほどの白い花をつけます。愛でる人は稀ですが、僕には懐かしい花です。

◇以前本誌に載せてもいた似顔絵を描いたのは、一柳光司さん（一九八〇年卒）です。身近にいる大学院生に「どうだろう」と尋ねたら「似ている」との答えでした。一柳さんは、教育計画ゼミの教員・ゼミ学生の似顔絵を描いて、ゼミ室の壁に飾っていました。いずれも傑作でした。

タイトルの「Mr. 仏」は、僕が「喫茶仏をやっています」と自己紹介したことになんぞおりました。『喫茶仏（四〇四号室）でコーヒーを飲むと仏にされる』という院生もいましたから、別の見方があるかもしれせん。

◇昨年本誌で「受験票・合格通知・成績表・講義資料・ゼミ資料・クラス雑

誌・学生運動・サークル活動・女子寮・北学寮等の学部寮・府県出身者寮に関する記録など、学生の日常生活を知ることができる資料を切望しております」と、ご寄贈をお願いいたしました。早速、お二方から受講ノート・恵迪寮・ゼミ資料等を寄贈していただきました。お礼申し上げます。

「こんなものが大学文書館に必要なのか」。そう、それこそが資料です。下記宛てにご一報下さると幸甚かと。

・北海道大学大学文書館・archives@general.hokudai.ac.jp、R011-706-2395

・逸見勝亮：hemmi@eduhokudai.ac.jp

夏の思い出

一九七一年卒 教育制度 後藤 篤 志

夏の甲子園の季節になると、汗と涙と笑顔の球児たちのドラマとはほど遠い、自分の青春時代を思い起こし、ほろ苦い気分になります。私が北大に入学したの

は五〇年前の一九六七年で、すぐにサッカー部に入りました。サッカーグラウンドは赤土で芝生などは夢のまた夢でした。当時はメキシコオリンピックで釜本選手が活躍し、サッカーブームでした。私は練習だけは一生懸命やったものの、二軍の補欠選手でした。大会ですばらしいシュートを決めた、というカッコイイ思い出はありません。バックスだった私のガニ股のすき間めがけて球を通され、抜かれたばなしで悔し涙を流していました。札幌大学はサッカー部のコーチがブラジルから選手を招き、強いチームを作っていました。北大はグラウンドコンディションの状態がいい時は礼大に負け、雨のぐちゃぐちゃな悪いコンディションの時、テクニクより気力のみでイーブンにもつていくのがやっという状態でした。

夏には旧七帝大の定期戦がありました。肉体労働のアルバイトで貯めた金で津軽海峡を渡り、名古屋大学などに遠征に出かけました。三五度の暑さにやられて散々でしたが、仲間たちはめげることなく黙々と練習を続けました。練習のあとはトンボと呼ばれる木製の道具でデコボコになったグラウンドをならします。シャワーなどしゃれたものはなく、「桃の湯」という近くの銭湯にいった番台の親父さんに嫌がられつつ、「よく洗ってから入れよ」と言われたものです。時々OBのカンパなどがあり、恵迪寮裏の原っぱでジンギスカンを囲みました。腹を減らしたサッカー部員たちは「サケが飲める、飲めるぞ」と楽しみました。ほうっておくと、ビールはひとり一ダース、肉もひとり一キロたいらげます。だから、ジンギスカンも早いもの勝ちで、肉が焼けるとすぐに箸を出す先輩を横目にして、よく焼ける前の肉を食らう羽目になり、腹をこわし猛烈な下痢に襲われた新人もいました。ジンバが盛り上がる頃にはグラウンドごしに手稲山が夕陽に染まっています。「羊群声なく牧舎に帰り、手稲のいただき黄昏そめぬ……」からはじまり、「ギンギンギラギラ夕陽が沈む……みんなのお顔もまっかつか」と夕



焼け空に向かって大声で歌いました。その後もお決まりで「ひとつ出たほいのよさほいのほい……」しめは皆で肩を組んで「知床旅情」でした。

「北海道大学卒業ですか、学部は？」と聞かれ、「サッカー部です」と答えています。

恥ずかしながら教育学部で勉強しました、とは言えない状態なのです。

当時のキャンパスは北大紛争真っただ中で、殺気だっていました。ノンポリの自分たちに対し、「サーカー部などは逃避集団だ！」とヘルメットをかぶった同級生からののしられました。友人に薦められて、吉本隆明、高橋和巳、埴谷雄高などを少しだけ読むようになりました。どこまで理解したかは別として、「共産党

宣言」などで「世界が見えた！」ように錯覚し、ベ平連のデモなどにも出かけました。北大キャンパスはバリケードによる封鎖派と反封鎖派での激しい衝突が続ききました。

教育学部は他の学部とは少し違っていました。ゲバルトではなく、大学を民主化し、自治を守るために学部集会を何度も開き、徹底した議論をしていました。民主主義は手間のかかるものだなあ、と実感しました。今にして思えば、民主主義の学校でした。そんなことを思い出しながら去年、小出達夫先生の喜寿のお祝い会に参加させていただきました。当時の学者は暗い感じの人が多かったのですが、小出先生は根が明るく飄々とし、裏表のない笑顔でほっとさせてくれる不思議な魅力のある先生でした。

さて、勉強も運動もサーカーも中途半端なまま大学を卒業することになりました。就活では新聞記者を希望したのですが、新聞社は落ちて、北海道放送（HBC）で報道の仕事させてもらったことになりました。その当時の北海道は炭鉱事

故が相次ぎ、なだれ閉山が起きていました。「佐藤総理大臣様、炭鉱をつぶさないで下さい」と、赤平豊里炭鉱の小学校六年生の少女が手紙を書いています。佐藤総理からの返信があり、「お手紙ありがとう。あなたのお父さんが働いている豊里炭鉱の閉山問題ですが、政府も精一杯努力するので、心配しないで、一生懸命勉強して下さい」と書かれていました。その豊里炭鉱は翌年に閉山しました。総理のリップサービスは子供の心まで傷つけました。私は炭鉱の街に通うことが多くなり、夕張炭鉱の事故から閉山、地域崩壊を追った「地底の葬列」などのドキュメンタリー番組をつくってきました。放送局での仕事は学生時代、運動で流したようないい汗ではなく、冷や汗の連続でした。その会社も四年前に卒業しました。卒業論文じゃないですが、戦後間もないころに起きた白鳥警部射殺事件、この事件では当時の活動家の北大生も疑犯者とされました。この事件がずっとひっかかっていましたので調べ直し、退職の年に『亡命者』白鳥

警部射殺事件の闇』（筑摩書房）という本を書きました。どこかで一度手にとっていただけばうれいす。

同期の仲間も七〇歳に近づき、たまにOB戦の試合に出て、ほとんど動かないものの、口だけは元気です。サッカー部の監督をつとめる同級生は土のグラウンドを人工芝のグラウンドにしよう、精力的に資金集めをしています。大学時代、さっぱり勉強しなかった自分ですが、今頃になって、やはり勉強しなくちゃ、と思い始めて北大図書館にでかけています。キャンパスを歩いてはグラウンドで、学部で仲間と過ごした濃密な時間を思い出しています。

あきらめてる
場合じゃない

一九八九年（平成元年）入学
体育方法ゼミ

辻 英之

一九八九年、私は大学卒業と同時に信州長野県の泰阜村という人口一七〇〇人ほどの小さな山村に移住した。一年間子ども達が村の小中学校に通いながら共同

生活を行う山村留学や、夏休みなどを活用した自然体験教育キャンプを行うNPO（当時は任意団体）に参加した。当時のおおよそ「就職」とはいえない状況に始まり、今もおお多の年収があるわけではない。へき地山村で生き抜くためには、北大の学歴などは何の意味もないことだった。まだバブルがはじける前のことだ。教授陣や同級生はさぞや心配されたことと、今更ながらに思う。

二〇〇九年からこのNPO（グリーンウッド自然体験教育センター）の代表理事を務めている。五年遅れて参画した女房（旧姓・山口典子）は、体育系ゼミの一つ下の後輩でもあり（彼



女は身体発達ゼミ）、現在は同NPOの役員として共に働いている。

私たちNPOのビジョン（目指す社会）は、「あんなじゃね」な社会だ。「あんなじゃね」とは、「案ずることではない」すなわち「大丈夫だ」「心配するな」「安心せよ」という意味を持つ、南信州の方言である。人と自然の関係性、人と社会の関係性、人と人との関係性、それらが安心な関係性でいられるような社会を目指している。

ところが、この数年、青少年をとりまく環境はどうだろうか。震災を始め、猛烈な台風、集中豪雨や土砂災害など、人と自然の関係は今や最も危ういステージ



を迎えている。世界中でまたぞろ繰り返される戦争や内紛は、とどまることを知らず、むしろ時間が逆戻りするかのようだ。そして、毎日ニュースを賑わす殺人事件やイジメ、虐殺は後を絶たず「人々の良心などどこにあるのか」と疑ってしまうほどだ。国民の声に耳を傾けない政治を生みだしてしまった私たち日本は、いったいどこに向かうのだろうか。

社会に横たわるこの無力感、閉塞感。人々が「どうせ」とか「無理だよ」と思ってしまうのも無理はないのではないかと、希望を語ることが仕事の私まで思ってしまうそうだ。

でも、私は思う。「私たちに山賊キャンプがある」と。山賊キャンプとは、わたしの NPO が開催する夏休みの自然体験教育キャンプで、ひと夏に全国から子どもが一〇〇人、青年ボランティアが三五〇人集う質量ともに日本有数のキャンプに成長していて、行列のできるキャンプと言われている。

思い通りにならない状況を、力づくで解決しようと

すること、数に任せて相手に言うことを聞かそうとすることは、私たちが目指す「あじやね」な社会にながらるものではない。お互いを認め合うこと、尊重すること、支え合うこと、力と知恵を合わせることで、そして未来を創ること。キャンプでは、それができる。そういうことを大切にできる心を培うことができるのが、キャンプだと、強く思うのだ。

そう、私たちには山賊キャンプがある。この夏の社会・環境の状況は確かに危うい。でも、同じこの夏には、八月六日や八月九日があるのではないかと。全国から子どもたちが集まってくるのではないかと。熊本から傷ついた子どもが来るのではないかと。それを支える青年が世界中から（福島からも）集まってくるのではないかと。そして、そのキャンプを、一七〇〇人の村民がこんなにも支えてくれるのではないかと。

あきらめてる場合じゃない。希望を語り続けなければ。世の中に横たわる無力感、閉塞感に、私たち（私たち夫婦も含めて）はキヤ

ンプで立ち向かいたい。北大教育学部の精神を胸にし

通信制高校での

出会いと経験

進藤 由紀

北大教育学部を卒業してからの三年間、私は私立の通信制高校で教員を勤めました。恩師の浅川和幸先生より今回の依頼を有難く頂戴し、大変恐縮ではありませんが、通信制高校での経験と近況のご報告をさせて頂きます。

「通信制高校」と聞くと、皆さんはどのような印象を持たれるでしょうか。勤める以前の私は「非行に走っ



た子や不登校経験のある子が高卒の資格をとるために「通う学校」と、どちらかと言えばマイナスの印象をもっていました。私が勤めていた通信制高校は、実情そのような生徒が大半を占めています。近年は心の病気を抱えた生徒や、人間関係に悩み高校から転校してくる生徒も増えています。

ひとり親家庭の生徒も多く、アルバイトと両立して学校に通う生徒がほとんどです。しかし、実際に生徒と関わりをもち、その見方は大きく変わりました。それぞれの生徒が事情を抱える中でも前を向いて頑張ろうとする姿に、大きく心を動かされる毎日でした。資格取得や部活動、芸能活動等自分のやりたいことに全力で取り組む姿。学校行事において、相手と価値観がぶつかる中でもお互いの個性を認め合い協力して成し遂げる姿。多様な背景、多様な価値観をもった生徒が集まる通信制高校だからこそできる経験だと思います。不登校だったけど学校に通いたい、友達と楽しい学校生活を送りたい、学び直したい、高校を退学になっ

ただどもう一度頑張りたい……ここは、できなかつたことにもう一度チャレンジできる機会が保障された場所だと思いました。

ここ数年の間でも、通信制高校の見方は変わりつつあると感じています。通信制高校では比較的時間を自由に使うことができ、大学進学に向けて効率的に勉強を進めることと、アルバイト、芸能活動等との両立ができます。また、学校によつては美容師免許の資格取得や、美容や音楽、スポーツなどの授業を選択できます。自分のペースに合わせて登校日数を決め、授業形式も個別授業か全体授業かを選択できます。選択できる自由、将来に向けて必要な勉強ができるというプラスの視点から入学を決める生徒が増えてきているのです。

私がここで生徒と一緒に過ごして気付いたことは、子どもにとって「信頼できる大人に出会うこと」はとても大事なことだと思います。生徒の中には親や教員等の身近な大人との関係が上手くいかず、辛い経験を持つ生徒も多いです。また、自

分に自信が持てなかつたり、攻撃的な態度を取ってしまったことすらあります。そのような生徒からは、誰かに認められたい、寂しいという気持ちを感じます。私は生徒が学校に来たら話しかける、良いところを認めて褒める、悪いことは注意する等、積極的に関わり誠実に向き合うよう努めました。生徒は自分のことを話すようになり、いろいろな人と関わったり、興味のあることに挑戦したりするようになりました。子どもにとつて自分を信じて受け入れてくれる、本気で自分に向き合ってくれる大人の存在はとても大きな力になるのだと気付きました。

私は現在、スクールソーシャルワーカーになることを目指し、資格取得に向けて勉強しています。通信制高校で出会った人々を通じて見つけた新たな目標に向けて、卒業生に胸を張って会えるように頑張りたいと思います。

最後に、同窓会だよりに掲載する機会を頂けたことに本当に感謝しています。以前、仕事で適応指導教室や学習塾を訪問した際に、

偶然にも教育学部を卒業した諸先輩方にお会いする機会がありました。教育学部のことや教育についてお話しさせて頂いた時間はとても楽しく、教育学部の温かい繋がりを思い出しました。また、大学時代には多くの先生方や先輩方にお世話になり、同期や後輩のおかげで充実した時間を過ごすことができました。卒業後も関係は続いており、仕事の話や研究の話で盛り上がるなど刺激を与えてくれる大事な存在です。改めて教育学部の温かさに感謝し、今後も人との縁を大切にしたいと思えます。

クライスト チャーチから

昭和六一年入学生体方法

久世 たかお

北緯四三度の町でも猛暑が続いているようですが、南緯四三・五度に位置するニュージールランド南島の所要都市クライストチャーチではちょうど冬休みが終わったところです。私がこの町に来てから八月末でちょうど四半世紀が



グビーに移行した去年からは特に、こちらの方が忙しくなりました。

修士論文では初心者のためのラグビー指導について書いたのですが、まさか二五年後にオールブラックスの国で自分がラグビー初心者の指導に携わるとは思いませんでした。日本の高校生とこちらの小学生の違い、

過ぎます。教育学部修士課程を修了した五か月後、クラブラグビーを経験するために知り合いのついでこの町のお土産屋のワークビザを取りました。二年だけのつもりが、気づくと二五シーズン目が終わろうとしてます。二〇〇〇年からはずっと週末にクラブチームや高校生の試合のレフリーをしています。北大で例えるならちょうど体育会会長のような役割でしょうか。契約制のこの役職の任期が切れたのを期に、今年はまだ日本語の教室にフルタイムで戻っています。今は一三歳から一八歳まで五学年を受け持ち、

二五年間におけるラグビー技術の変化などを考慮に入れないまでも、理論と実践の大きな違いに毎週楽しく四苦八苦しています。

二〇〇一年から勤めている今の学校では日本語を教える続ける傍ら、去年まで八年間スポーツディレクターとしてスポーツ系クラブの運営全般に携わっていました。北大で例えるならちょうど体育会会長のような役割でしょうか。契約制のこの役職の任期が切れたのを期に、今年はまだ日本語の教室にフルタイムで戻っています。今は一三歳から一八歳まで五学年を受け持ち、

さらに近所の小学校に週三回ほど通い、そこで子供たちにも日本語の楽しさを経験してもらおうと、歌や踊りを交えて簡単な会話を教えています。

こちらの小学校は今、これまでの一クラス一教室一担任という伝統的な教育方法から、Modern Learning Environment (MLE) と呼ばれるスタイルに変わってきています。この環境ではコンピュータやインターネットをふんだんに使い、大きな空間を複数の学年の生徒がグループに分かれ、自らプロジェクトを企画実行していくなかで七つの主要学習領域を学んでいきます。そして教師もチームティーチングを通し、教えるというよりアドバイスをするという形に変わってきています。特に六年前に地震で多くの学校が被害を受けたクライストチャーチでは、再編成され新築された小学校のほとんどがMLE設計がなされています。

私の子供たちが通う学校も地震後二つの学校が合併すると、去年から新しい建物の中、オープンスペースを使って教えています。今年

年の六月には五歳になった娘もこの小学校に入学しました。二人とも楽しそうに毎日通っていますが、父母の間にはこうした革新的な教育システムに不安や抵抗があるのも事実です。

私が大学院にいた頃鈴木秀一先生が中心となって、新たな学校を作るための会が塾を開いていました。そこでアルバイトをさせていたのですが、MLEはその頃先生方が目指した教育に似ているなあと、当時は思い返しながらそうした印象を持っています。

北大のご縁に深謝

昭和六十二年入学生(六十三年移行) 児童発達ゼミ

谷口 瑞石

滋賀県在住の谷口瑞石(ずいせき)と申します。

制度が未だに教科教育から離れずにいるため、それに合わせて私が勤める学校ではMLEに逆行するように教室の数を増やしています。MLEが高校の高学年まで移行するにはまだ時間がかかるでしょう。

人口も少なく歴史も浅いニュージールランドは、新しい試みに対し敷居が低く、ポジティブな反応を示す人が多いです。過去に例を見ないスピードで技術革新は進み、地球温暖化による気候の変化はこの国でも顕著に現れ始めています。そして高齢化社会も目前の課題です。さらに、この国ほど短期間に貧富の差が広がった国もありません。こうした変化の向こうに生きていることは事実です。

の知れた存在であったことは、言うまでもありません(苦笑)。

その後は念願かない、四年間青春のすべてをかけてサッカーに明け暮れ、教育学部の授業やゼミにしっかりと出たのは、留年を経ての五年目の時でした。小出先生の「学校経営論」など、今でもよく覚えています。

卒論はやはりサッカーがらみで、少し指導に携わっていた「スポーツ少年団」と、「クラブチーム」の子どもの心理比較をそれっぽく行ったものでした……。

ぼくが当時一番お世話になったのが、進藤省次郎先生です。教養時代の体育実技(卓球)の授業に、あの頃のサッカー部は練習後の

酒席での上下関係が非常に厳しかったため、お酒の弱いぼくはよく二日酔いで倒れそうになりながら出席したり、欠席したりということがありました。そんなぼくを見かねて、進藤先生が「何があっても欠席だけはするな!」這ってでも授業に出てきなさい。そしたらたとえ立っていられなくても、単位はあげるから」と言ってくださったのです。

そのお言葉どおりに、進藤先生はろくに実技のできなかったぼくに、単位を与えてくださいました。

そんな北大時代を経て、今は実家の保育園とお寺での勤めに就いています。北大のご縁はたいへん有り難く、二年に一度ニュージールランドから、同期の久世たかおくん勤務校であるカシミアハイスクール(クライストチャーチ市)で日本語を学ぶ生徒の皆さんが、修学旅行の一環としてうちの園にも立ち寄ってくれます。当日は「ブチ国際交流」が繰り広げられ、毎回とても盛り上がりがあります。



貴重な単位をいただき尊

敬する進藤先生には、北大ご退官後兵庫県の園田女子大学に赴任されていた際に、滋賀県内の私立保育園組織

の研修会で、体と心育ての観点からのご講演をたまわりました。実は今年の七月にまたご無理をお願いして、うちの園内研修にもお越しいただいたところでした。テーマはずばり「やんちゃでかしくやさしい子どもに育てよう!」ということ

で、今の子どもたちが遅しく優しく育ってくれるための保育のあり方について、深く学ばせていただきました。進藤先生の愛弟子の一人でもある辻英之くん(NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター代表理事)にも、「環境問題と自然学習」というテーマで、

滋賀県に来ていただいたことがあり、子どもにはあえて「手間」をかけさせるべきという言葉が、とても印象に残っています。前田輪音さん(北海道教育学部准教授)には、当時からこんなぼくを温かく見守ってもらい、今でもフェイスブックなどで繋がりを設けていただいでいて、

心から感謝しています。ろくに学部顔を出さないほくのために、心優しい輪音さんの仲間の方が、ゼミ費をわざわざ体育会室まで取りに来てくださったことも、

けっして忘れません! 今回この原稿のお声かけをいただいた須田力先生とは、年賀状のやりとりを続けさせていただいでいて、

滋賀でも最近よく降る雪との付き合い方など、いつも勉強させていただいています。須田先生、この度のご縁と合わせて、常々何かと本当にありがとうございます! (ラグビー部やサッカー部の総力を結集して、必ずや北大グラウンドの人工芝化も成し遂げましょう!)

終わりにりましたが、須田先生の愛弟子と呼べるかどうかはわかりませんが(笑)、「人はなぜ後ろ向きではなく前向きに歩くのか?!」という名(迷)論文を残した同期の宮田博己くんが、大阪のJ.R茨木駅前で「ほっかバル」(TEL 072-621-6134)という北海道愛を溢れるダイニングバーを営んでいます。同窓生の皆様には、大阪にお越しの際にはぜひお立ち寄り。

そんなわけで、ぼくは北大と教育学部とサッカーが大好きです。

(追伸) 今保育園で子どもたちと共に、ぼくが一番合いを入れて取り組んでいるのが、「手間」をかけてのお米作りです。



教育学部を卒業して三〇年

第三六期(S六三卒)教育社会学部 小内 浩



教育学部を卒業させていただいて約三〇年。教育学部で学んだことが、仕事に生きていると日々実感しており、感謝しております。

現在私は、公益社団法人北海道勤労者医療協会、(略称、北海道勤医協)で仕事をしております。北海道勤医協は、「地域住民の要求に応え、患者・地域住民との共同のいとなみとして、無差別・平等の医療・福祉を実践し、健康で安心して暮らせる地域社会の形成・発展に寄与することを目的」(定款)に、札幌を中心に道央圏で四病院、二〇診療所、一老人保健施設、一看護学校を運営しております。

仕事の関係から、貧困・格差が拡大する中での医療現場と崩壊しつつある地域

医療での困難を打開する取
り組みの一端を述べて、近
況報告とさせていただきます。

北海道勤医協の病院、診
療所も加盟する全日本民主
医療機関連合会（全国で約
一八〇〇の医療機関・介護
事業所が加盟）では、毎年

手遅れ死亡調査を実施して
おり、マスクミからも注目
されています。無保険や経
済的理由で、受診が遅れた
ため死亡した患者さんの事
例調査で、直近（二〇一六

年の一年間）では全国で五
七人、北海道でも二人の方
の事例が報告されています。
そのうちの一つの事例は、
六〇代、独居の男性。広告
印刷業を営むも破綻、十分

な食事をとらない日々が続
き歩行困難に。電気も止め
られ携帯も使用不能。新聞
の勧誘など来た時に助けを
求めようとしたが玄関まで
行けず、声も出せず「この

まま死ぬ」と覚悟した時に
偶然甥が訪問。飢餓状態の
本人に気付き緊急で勤医協
中央病院に搬入されました。
無保険で、手持ち金はなし、
無料低額診療を開始しまし
たが、ガンによる全身転移

があり、入院二〇日後に死
亡されました。経済的理由
で受診を手控え、重症にな
り最後に受診した時には既
に取り戻しのできない事態

は、氷山の一角で、数倍も
の事例が隠れているものと
考えられます。早めに受診
し、治療を開始していれば
と悔やまれてなりません。

二〇〇〇年代の後半から
貧困・格差の急速な拡大と
医療費の負担が重くなり、
経済的理由で受診できない
方が増えておりました。北
海道勤医協では、いのちは

平等の理念のもと、無差別
平等の医療の実現をめざす
取り組みとして、無料低額
診療事業を重視してしまし
た。無料低額診療は、「生

計困難者のために、無料又
は低額な料金で診療」する
ものであり、社会福祉法に
もとづく第二種社会福祉事
業です。北海道勤医協では、
二〇一六年度に二二一九人

の方が無料低額診療を利用
し、減免した窓口負担の総
額は八七七一万円になって
おります。まずは、無料低
額診療を利用して治療し、
憲法第二五条にもとづき生
活保護など公的制度を活用
し療養を継続するとともに、

医療は現物給付＝窓口負担
なしとすることが大切であ
ると考えています。

人口減・超高齢社会を迎
え、医療・介護サービスの
提供が、入院から在宅、医
療から介護、介護からボラ
ンティアへとシフトしつつ
あります。北海道では、二

〇二五年に向けて、住み慣
れた地域や自宅での生活を
支える「地域完結型」の医
療へ転換し、必要病床数を
七万三千床とし、二〇一三

年の病床数から約一万床削
減（一二％減）とする地域
医療構想を策定しました。
既に、医師不足と医療機関
の経営悪化により、地域か
ら病院・病床が減少し、人

口流出に拍車がかかる事態
も進んでいます。
北海道勤医協の診療所が
ある黒松内町は人口約三〇
〇〇人で、四〇床の国保病

院を町が直接運営しており
ました。数年前から常勤医
師を安定的に確保すること
が困難になり、二〇一六年
四月より、町内にあった四
〇床の国保病院と北海道勤
医協の無床診療所の二つの
医療機関を、一九床の診療
所一カ所に集約し、北海道

勤医協が指定管理者として
町から委託を受ける形で新
たな歩みを開始しました。
黒松内町と北海道勤医協が
締結した基本協定の前文に
は、「……保健・医療・介

護、施設・住宅が一体的に
提供される、真に町民のた
めの「地域包括ケア」を目
指す。この取組は、地域医
療を志す医療集団の先進地

となり、日本各地で起きて
いる「地域医療の行き詰ま
り」を打ち破るモデルにも
なることを確信する。……町民
と協力共同して「日本で最
も健康なまち」を目指すた
め、この協定を締結する」

とあります。約一年が経過
したばかりで、様々な困難
はありますが、希望ある未
来に向けて、黒松内町の皆
さんと共に健康で安心して
暮らせるまちづくりを進め
ています。

北海道勤医協の診療所が
ある黒松内町は人口約三〇
〇〇人で、四〇床の国保病
院を町が直接運営しており
ました。数年前から常勤医
師を安定的に確保すること
が困難になり、二〇一六年

四月より、町内にあった四
〇床の国保病院と北海道勤
医協の無床診療所の二つの
医療機関を、一九床の診療
所一カ所に集約し、北海道

郎先生の教育学部の構想、
考え方です。教育諸科学の
探求―北海道が直面してい
る課題を、各専門領域の知
見を活かしアプローチする
学際的スタイルで研究し、
実践的な性格として意識す
ることを、恩師の布施鉄治

先生から教えていただいた
ように思います。そして、
戦後まもない時代に、痛恨
の教訓から日本国憲法と旧
教育基本法を土台として、
いのちが大切にされる、戦
争のない平和な社会を求め、
教育と研究をすすめていた
ことも忘れてはいけないと
思っております。

読いたただけると幸いです。
はじめに、「教育学事務
部」と聞いて、どのような
仕事をしている組織なのか
ピンと来る方はいらっしゃる
と思います。学生は
奨学金の手続き・証明書の
発行手続き・論文提出など
で教務担当窓口を訪れた経
験があるかもしれませんね。
しかし、事務部の仕事は
もちろんそれだけではござ
いませぬ。先に述べたのは
あくまで教務担当業務の一
部で、ほかにも事務部を総
括する事務長、庶務・会計・
図書で各々の仕事はこちら
に書ききれないほどたくさ
んございます。正直、教務
担当以外の業務については
わたくしも不案内のため、
こちらには記述できません
が（申し訳ありません……）。

ただ、わたくしの考えで
は、事務部は教職員・学生
の快適なキャンパスライフ
を送るための「縁の下の方
持ち」のようなポジション
にあると思っております。

ここで自己紹介をさせて
いただきます。本文筆者の
教務担当酒井と申します。
北大職員最年少（平成二九

一年ちよつとの新米職員が、
教育学事務部についての雑
感を執筆いたしますので、
どうか温かい気持ちでこ一



教育学事務部教務担当
酒井 美 咲

新米事務職員の雑感



年七月一日現在)の二一歳、小学校一年生から中学三年生まで完全ゆとり教育を受けた世代です。ですから「これだからゆとりは」と言われたいよう、誠心誠意努力しております。出身は動物園が有名な旭川市で、最近の名古屋の「町おこしお兄さん」にぞっこんでございませう。よろしければ「ボイメン」で検索してみてください。これからブームが来ると信じております(おっと、脱線!)。

話は変わりますがわたくし、大学を出ておりません。高校を卒業してからは公務員を目指すべく、北大近くの大原法律公務員専門学校に通っております。昨年の四月に北大に就職し、ド

キドキの社会人初舞台となったのがこの教育学部でした。大学を出ていない私にとって、履修登録や単位についてなど、大学の基本的な知識さえも持ち合わせておらず、教育学部についてどのようなことを学ぶ「学部」かも知らずにおりました。

はじめは、そんなわからないことが山積みのわたくしにこの仕事が始まるのか不安でした。ですが、優しい上司や先輩、ドアをノックすると優しい笑顔で出迎えてくださる小内研究院長をはじめとする先生たちの支えにより、少しずつこなせる仕事が増えて参りました。

少人数部局なので担当する業務の幅は広く、勉強しなければならぬこともたくさんありました。今でも勉強すべきことは沢山ありますが、着実に今の業務をこなせるスキルを身につけることにより、他部署に異動になった際には即戦力となれたらと思っております。

抱負のようなことを書いてしまいました。結局何

が言いたいかと申しますと、とにかく教育学部の「人」の良さをお伝えしたいのです。昨年度の同窓会だよりに当時庶務係長の小島さんも同じことを書いておられました。私も書いておられるし、私も同感でございます。

この一年間教育学部で働いたこと、教員や学生との距離がとて近く、アットホームな環境で仕事ができ、社会人の初舞台がこの教育学部でよかったと心から思っております。

それでは、かくも拙い文章に、最後までお付き合いいただきありがとうございます。

計 報

須田 勝彦 先生



二〇一七年四月二十五日逝去、享年七十一歳でした。一九七四年四月に北海道大学教育学部に着任、二〇

〇九年三月に定年退職、同年四月に名誉教授の称号が授与されました。

専門は教育方法学で、「教科を超えた教育方法学は教科の内部にある」という立場から、主に算数・数学教育の領域において、学問としての数学を教えるという目的論に立って、学習者の論理としての数学を具体的な教授プログラムとして構成し、実験授業によって検証していくという実証的研究を進めました。

須田先生によれば、教科に対応する学問の内部からは本来的に答えを得ることのできないような、数学とは何か、歴史とは何か、現代をどう見るか、自然をどう見るか、といった問いに教育方法学研究は具体的に答えなければなりません。

このような問いを取り扱う学問に関する哲学あるいは学問論に、現代の個別の学問の発展に即応したものとして扱って立つことなしには、学習者を知的に満足させることができず、と云うのです。幼い・若い学習者が無意識のうちに求めている学問への希望に込めるということが肝要なのだと思

特別掲載

思います。(大竹 政美)

昨年の同窓会出欠はがきおよび同窓会費などの振り込み時に近況報告していた方々の声を紹介します。なお、ほぼ一年前の「近況」を原文そのまま掲載いたしますので、ご了承ください(順不同、敬称略)。

〇「同窓会だより」は興味深く拝見しております。文系4学部共同シンポのテーマ、パネリストの皆さまの顔ぶれ、すばらしい発言内容であったと思います。この記録はネット上での公開などはできないでしょうか。国吉 昌晴(66年卒) 西

東京市
〇特別支援学校を最後に退職して早や2年。在住する市の教育相談を担当しています。学生時代は発達心理学を専攻し、三宅先生と若井先生に指導していただいたことを思い起こしながら、再度勉強しています。土門 明(80年卒) 酒田

〇卒業同期の遠藤勝彦氏がフルマラソンを完走したとは恐れ入りました。完璧に脱帽です。学部卒のOB・OGの潜在能力にまったく計り知れないものを感じます。会報がとても楽しみです。遠藤氏の連絡先がわかればうれしいのですが。

葛岡 誠一(67年卒) 札幌市清田区
〇陶潜(「帰園田居」)や西村久蔵(三浦綾子「愛の鬼才」)に共鳴しつつ、農に勤しみ、ハーブや薬草に親しんでいます。石狩湾に建設されつつある巨大風車群の(超)低周波音による、札幌を含む広範囲の健康被害が心配で、何としても阻止しなければ。(石狩湾岸の風力発電を考える会) 高縁 恵美子(89年卒) 札幌市北区

〇いつも楽しみに同窓会誌を拝読させていただいております。竹田先生の健康の秘訣、興味深く読ませていただきました。私も「7つのポイント」全制覇目指して、定年後の日々を元気に楽しく過ごしていこうと思

います。逸見先生もお元気です！ 小松 秀樹(79年卒) 川

崎市

○8月、横浜の孫の夏休み研究に付き合つて札幌へ。定期観光で大倉山、羊ヶ丘を回りました。翌日は地下鉄で円山動物園。入学当時はまだ市電で、地下鉄は工事中でした。72年(昭和47年)の札幌オリピックは北21条のアパートでテレビ観戦していました。44年経つてようやく現地の大倉山シャンツェに立ちました。孫のおかげです。

秋元 義禮(73年卒) 弘前市

○4年前に北海道教育大学札幌校を定年退職、現在も特任として仕事を継続しております。臨床心理士として小学校のスクールカウンセラーもやっています。

森 範行(72年卒) 札幌市東区

○次の世代に何をどんな方法で伝えるべきか考えつつ、非常勤講師先の埼玉医科大学で、未だにヒベットを持ち、生理学実験に取り組んでいます。

長根 光男(76年卒) 埼玉県比企郡鳩山町

○今年度の同窓会の案内が来ました。竹田先生ありがとうございました。私は今、

脳出血や脳梗塞、認知症の方たちの臨床にかかわっています。脳について日々新しいことの発見で、脳の可塑性の高さに感動しています。

諸富 隆(65年卒) 盛岡市

○同窓会日より、毎号楽しく読ませていただいています。区で生活保護困窮者の自立支援の仕事をしていいますが、学部で行われている研究と今の仕事のかかわりが意外と強いのに驚いています。

田中 稔久(83年卒) 神戸市

○税理士法人を退職し、渋谷区の個人事務所の後継・開業を目指して頑張っています。

斎藤 真姫子(86年卒) 東京都中野区

○本年3月より2回目の茨城生活を送っております。

新田 健太(01年卒) 龍ヶ崎市

○平成28年春より、熊本大学大学院自然科学研究科付属減災型社会システム実践研究教育センターに赴任しました。熊本での復興に尽力しています。

古本 尚樹(01年卒) 札幌市

幌市北区

○「同窓会日より」楽しく拝見しております。竹田会長の「健康状態と健康維持に何をしているか」の記事を拝見、びっくりしました。

黒川 昭和(55年卒) 小樽市

○「同窓会日より」お送りいただきありがとうございます。特別掲載の私の原稿中、「敬語と梅園哲学の評価」とありますが、正しくは「敬語と梅園哲学の評価」です。三浦梅園は江戸中期の哲学者であり教育者でもありました。「敬語」は当時の朱子学を批判した書です。現代語に訳し、梅園哲学(条理学)を弁証法的唯物論と評価しました。

渡部 秀清(72年卒) 東京都杉並区

○「同窓会日より」をお送りいただきありがとうございます。学生時代にお世話になった竹田先生、逸見先生の文章をはじめ、楽しく拝読させていただきました。皆さんの健康をお祈りします。

小野塚 恒夫(78年卒) 新潟市

ンギやちゃんちゃん焼きを食べて懐かしんでおります。杉山 昌夫(83年卒) さいたま市

○現在はニュージールランドのオークランドにワーキングホリデーで行っております。(母代筆)

澤井 景子(11年卒) 札幌市南区

○1876年札幌農学校開校以来140年、1949年教育学部発足以来67年、長い時間が経過しました。1965年に卒業した私たちも、もう「後期高齢者」になります。今年のホームカミングデー、公開シンポジウムのテーマは「地域を創造する子育て」とか。これからの北海道を俯瞰してみると「再開拓」。これまでの開拓とは異なる、何か意味を持った新たなテーマが必要だと思えます。これまでの百数十年間も北大は「北海道開拓」に寄与してきましたが、これからより一層期待されていると思います。今年の秋の台風・長雨で、ずたずたになった交通体系とその影響を遠く関東の地から眺め、「玉ねぎ1玉・100円」かとの感想だけでなく何やつてるんだ!との「怒り」もあります。今年のパネルディスカッションを拝聴できたらその思いはありますが、今はその時間がありません。多分それが最後になるでしょうが、元気なうちに、もう一度「ホームカミングデー」の集いに参加し、皆さまとも同じ時間を過ごせたらと……。

徳勢 正昭(65年卒) 横浜

○6人の孫に恵まれ、今のところ元気です。しかし、今の世界、子どもや孫たちの未来に不安一杯です。核兵器、テロ、異常気象。健全な子どもたちのために教育学部の発展を祈ります。

三島 陽子(65年卒) 江別市

○百人参加の喜寿の会を終えました。今は三味線、尺八、アコーデオンのグループを編成し、民謡・童謡を携えてデイサービス施設を訪問する活動をしています。何かのお役に立っていると思いつつ。

益村 欣照(62年卒) 流山市

○仕事の調整がつかず、残念ながら欠席します。卒業後、ハウスマーカーに勤務

して早や30年。現在も営業として都内を回っています。

新本 直樹(86年卒) 藤沢市

○克く動く、良く読む、善く慈しむ。高齢なれど、もう一度出席できるよう努めます。幹事諸氏ご苦労さまです。

織田 光之(55年卒) さいたま市

○おかげさまで元気です。パリへ今年も滞在しましたが、いつまで続けられるのか、少々心配もあります。個展は12月に東京・八重洲で予定しています。

武田 光弘(60年卒) 東京都杉並区

○同窓会日よりを拝読して、活発な活動に感激すると同時に、学部出身者の活躍に賛辞を呈します。今回の公開シンポジウムはぜひ参加し拝聴したいと思いましたが、日程が調整つきません。残念ですが欠席となります。当方、NPOに加入して週4日、学童保育に携わっております。将来を担う児童たちと毎回元気に過ごしております。

坂本 仁彦(70年卒) 東京都世田谷区

○ヤマハや千葉県、茨城県

のオーケストラ、アンサンブルでバイオリンを弾いて忙しくしております。当日はご盛会をお祈りしております。

市 小泉 安治(63年卒) 柏

○道立高校で英語を教えています。北大が「総合入試」制度を導入してから、道内の高校生が北大に入学するのが難しくなっています(北大の道内占有率の低下)。しかし北大に憧れる生徒は少なくありませんから、今後も生徒たちを励まします。

徳長 誠一(98年卒) 北見市

○現在も月々土の週6日働いているため参加できません。この歳でまだ職があるだけ恵まれていると思っています。

児玉 金房(75年卒) 札幌市白石区

○教育行政ゼミで小出先生から地方分権の考えを学んで20年弱。総務省から内閣府地方分権改革推進室に出向して勤務していることに不思議な縁を感じます。

高橋 英一(01年卒) 東京都豊島区

○「同窓会だより」とって

もうれしく読みました。何人か知人がいて、来年こそは「出席しよう」と心では……思っています。「新渡戸カレッジフェロー」に推していただき、協力して

市 鈴木 明子(55年卒) 京都市

○学部のますますの発展と会員の皆さまのご健勝をお祈りいたします。

早川 和雄(56年卒) 小樽市

○大府南中学校にて、2年目の担任として楽しく過ごしております。

早川 剛(15年卒) 知多市

○3月末をもって定年延長後の5年の嘱託も定年となりました。6月に恵迪寮とともに過ごした友人からの誘いにより、妻と2人で札幌に行きました。その変貌に驚きました。

岩間 隆(74年卒) さいたま市

○もう何年も出席していません。いつか同期で声を掛け合って出席できればと考えております。札幌市役所

同窓会は6年ほど継続して

市中出 昭彦(86年卒) 札幌市厚別区

○毎年「たより」楽しみにしております。来年で卒業して20年になります。若い時を北大で過ごせたのは幸せなことでした。

秋山 祐子(97年卒) 明石市

○成年後見人など、ボランティア仕事を続けています。

塩谷 滝衣(61年卒) 札幌市中央区

○仕事から完全に引退しました。何とか生活しています。元気です。

伊藤 則博(62年卒) 札幌市厚別区

○84歳でこれからの人生航路をどう切り切るか切実です。そこで、リオでのオリンピックの感動を、余力を持って東京でもと、航路到達を89歳に勝手に設定した次第。計画を持つことで希望もわいてくる。体幹を鍛えて一路邁進です。

橋内 哲也(55年卒) 札幌市厚別区

○傘寿を迎え、記念に残ったものは宝の孫5人、拙著「増補 保健体育理論」(東京・杉山書店)18版発行と

医学博士号である。体調と酒の量は正常より良好です。ご盛会を祈念します。

安栄 鉄男(61年卒) 北広島市

○後期高齢者に仲間入りしました。社会福祉法人の理事をひとつだけ、あとは健康寿命の伸長に努力しています。その効果は投薬ゼロが証明してくれています。

清水 洋(64年卒) 札幌市東区

○同窓会だよりありがたうございます。お世話になった方々の計報に祈りを捧げ、若い方々の活躍に喜びを感じます。ボランティア生活の中でも学ぶことばかり。

鈴木 里律子(78年卒) 札幌市中央区

○同窓会事務局の斎藤幹事長さん、いつもありがとうございます。当日は所用で出席できませんが、盛会を祈念しております。

北守 昭(76年修士修了) 札幌市北区

○北大全学の同窓会が、在学生、院生や現職の教職員を含む「北海道大学校友会エール」に、2016年6

月1日から、改革されました。教育学部同窓会もその構成員ですが、既会員は学部同窓会費を納入することで全学の会員にもなります。

市 竹田 正直(59年卒) 札幌市北区

○83歳になりました。今のところ元気に通常生活しています。やりたいことを考えて、やれるうちにしておこうと考えています。

小島 忍(59年卒) 江別市

○初めての同窓会参加を楽しみにしております。

牛島 康明(74年卒) 千葉市

○現職も残り10カ月、現役に悔いすることのないように頑張る、定年後の身の振り方を考えます。ときどき母校・北大を訪れることのできる人生を送りたいと思います。

佐々木 秀之(81年卒) 稲城市

○北海道に自由な認可の小学校をつくる運動をしています。関心のある方はお力をお貸しください。

細田 孝哉(85年卒) 北広島市

○完全なフリーになって14年、時間は十分にあります。

そこで、新聞・テレビを人念に見るが、最近の政治・世相には腹の立つことが多い、精神衛生によくありません。

市 大居 健二(57年卒) 札幌市厚別区

○「同窓会だより」、たくさんの方々からのメッセージで充実したものになりました。ありがとうございます。

須田 力(66年卒) 札幌市東区

○85歳になりました。おかげさまで何とか小さな診療所で小児科をやっています。

多米 豊(54年卒) 札幌市西区

○身内の「戦争被害」を書いた斎藤さんの勇気を讃えます。それすらしない人ばかり。加藤 多一(58年卒) 小樽市

会務報告	(H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31)
------	--------------------------

期 間	会 務 次 項
H28. 5. 19	平成 28 年度幹事会開催。
H28. 6. 1	北大連合同窓会会議。竹田会長と齋藤幹事長が出席。
同日	北大校友会エルム発足。
H28. 6. 21	役員・幹事に議事録発送。
H28. 6. 22	ホームカミングデー文系 4 学部合同打ち合わせ開始。
H28. 7. 1~8	竹田会長、小内学部長がパネリスト表敬訪問。
H28. 8. 20	H28 年度同窓会会報発行。
H28. 9. 24	北大ホームカミングデー。
同日	文系 4 学部合同シンポジウム。
同日	平成 28 年度同窓会総会。
同日	文系 4 学部合同懇親会。
H28. 10. 末	文系 4 学部合同行事について文学部同窓会に引継ぎ。
H29. 1. 31	役員・幹事にリテラ・ポプリ発送。
H29. 3. 23	北大学士学位記授与式。竹田会長と齋藤幹事長が出席。
	アレンジメントフラワーとビールを贈呈。
	学年幹事は、伊藤 順真（イトウ ジュンシン）さん、佐藤 奈月（サトウ ナツキ）さん。
H29. 3. 31	名簿発行延期について予約者に通知発送開始。

会計報告	(H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31)
------	--------------------------

収 入 の 部		支 出 の 部	
前期繰越	342,301	懇親会費 (H28) * 2	330,000
懇親会費 (H28) * 1	285,166	会報作成発送費 (H28)	303,274
懇親会余剰金	0	通信費・発送費	32,665
会費等収入 (料金相殺)	406,000	雑費・消耗品費	4,539
雑収 (銀行利息)	3	慶弔費	0
		交際費	27,480
		卒業式協力費 (花代)	5,000
		交通費	3,300
		(小計)	706,258
		次期繰越	327,212
合 計	1,033,470	合 計	1,033,470

* 繰越内訳	
郵便振替残	8,918 円
銀行預金残	318,294 円
合 計	327,212 円

* 1~2、合同懇親会は教育学部同窓会が担当幹事だったため、各学部同窓会よりの会費を当同窓会の口座で受けて、まとめて中央食堂に支払いました。

平成 29 年度版同窓会名簿予約受付開始

- ・ 昨年の会報でご案内した同窓会名簿は、予約申込数が 45 冊にとどまったために 1 年延期して、平成 29 年版（平成 30 年 3 月卒業・修了者のデータを含む）として発行を目指すことになりました。
- ・ 最少部数は 200 冊で、予定価格は 4,500 円となります。
- ・ 予約部数が 200 冊を上回ると、価格が下がる見通しです。
- ・ 逆に、200 冊を大幅に下回ると、発行を断念します。
- ・ ご希望の方は、会報に同封の注文専用ハガキにて、学部返信をお願いいたします。（既に予約済みの方は不要です。）
- ・ 発行は、平成 30 年 6～7 月を予定しております。

△編集後記▽

昨年のホームカミングデーの文系四学部合同シンポジウムは、教育学部の幹事で盛況のうちに開催することが出来ました。パネリストをつとめていただいた、笹原昌博さん（北海道銀行頭取）、大見英明さん（コープさっぽろ理事長）、遠藤知恵子さん（北翔大学元学長、札幌遠友塾自主夜間中学代表）の皆さんにあらためてお礼を申し上げます。そして、準備や当日の運営に尽力して下さった、小内学部長をはじめ多くの皆様に重ねてお礼申し上げます。今回の会報では、その模様を出来るだけお伝えしようと努めました。

今年、文学部が幹事で「芸術フロンティア北海道」をテーマにシンポジウムが開催されます。全学でも様々なイベントが用意されていますので、どうぞ懐かしい母校を訪ねてみてください。

さて、名簿発行については、予約数が少なかつたために一年延期する事とし、改めてお知らせする事になりました。周知の仕方が目立

たなかつたせいかなと思ひ、表紙にも一文を入れる工夫をしました。多くの皆さんの予約申し込みをお待ちしております。

今回の会報を作成するにあたって、原稿が集まらなかつたら如何しようかという不安を抱いてスタートしたのですが、須田力先生をはじめ皆様が同窓生に声をかけて頂き、私の心配を吹き飛ばして、多くの素晴らしい原稿を寄稿していただきました。編集担当者として感謝にたえません。逸見先生にお願いした時には「書くなと言われても書く所存。」との頼もしいお言葉をいただきました。また、学部事務室にお願いしたら、本学最年少の事務職員の酒井さんが、初々しい一文を寄せていただき思わず微笑んでしまいました。

残念だったのは、須田勝彦先生の計報をお伝えしなければならなかつたことです。まだ七十一歳という若さでした。数学教育研究の方法論と実践に顕著な功績を残され、先生の教示を受けた同窓生も多いと思いま

す。謹んでご冥福をお祈りいたします。

最後に、会計報告にもあるように、おかげさまで同窓会の財務内容が安定し、安心して運営が出来るようになった事をお礼とともにご報告し、同窓生の皆様ますますのご健勝を祈りつつ、編集活動を終了いたします。

（八月三日 齋藤 彰）

トピックス

〈合同シンポジウムの様子 2016.9.24〉



総会にて

〈合同懇親会にて〉



秋元札幌市長も一同窓生として参加



懇親会にて



パネリストをつとめた道銀頭取の菅原さんも参加



リラックスして笑顔でスピーチ

トピックス

〈学士学位記授与式と祝賀会の様子 2017.3.23〉



挨拶する学部長の小内先生



同窓会長の竹田先生



一人一人に学位記が授与された



学年幹事に佐藤奈月さん(左)、伊藤順真さん(右)が委嘱されました



笑顔で記念撮影



祝賀会で笑顔で挨拶する小内先生



祝賀会にて



祝賀会にて



HOKKAIDO UNIVERSITY
HOME COMING
DAY 2017

Be ambitious again!

卒業生も、現役生も、
見守る人達も、
みんな。

北海道大学 ホームカミングデー

9.30 2017
[SAT]

会場 北海道大学 札幌キャンパス

主催 北海道大学 共催 北海道大学校友会エルム

お問い合わせ先

北海道大学 総務企画部 広報課

TEL:011-706-2012 FAX:011-706-2092

受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

<http://www.hokudai.ac.jp/home2017/>



北海道大学 校友会 エルム

北海道大学の卒業生の皆様のご登録をお待ちしております

※平成 28 年 6 月 1 日以前に基礎同窓会（教育学部同窓会等）に加入されている方は会費不要です。



学生の皆様に支援しています

キャリアセンターと連携して北海道大学企業研究
セミナーを開催しています

会員登録は以下 URL からフォームにアクセス



<http://www.alumni-hokudai.jp/>
在学生・卒業生・教職員向け



郵送でのお申し込みをご希望の方は事務局までご連絡ください



校友会のPVをぜひご覧下さい
<https://youtu.be/clbNUUsJ23s>



北大との絆をつなぐ一枚



UCカード株式会社
北海道大学カード



三井住友カード株式会社
北海道大学カード

申込み

UCカード専用ページから申込み

- UCカードサイト
- 新しくカードを作る
- UCカード一覧
- 北海道大学カード



<https://www2.uccard.co.jp/card/lineup/hokudai.html>

三井住友専用ページから申込み

- 三井住友カードサイト
- カードをつくる
- カード一覧
- 北海道大学カード



<https://www.smbc-card.com/nyukai/affiliate/hokudai/index.jsp>

北大事務局
から申込み

専用申し込み用紙を送付いたしますので、下記宛にお名前・ご住所をお知らせください。
カードは、お申し込みから約1ヶ月後に、カード会社からご自宅にお届けします。

北海道大学カードが北大生を支援する仕組み
北海道大学カードへの入会による取次手数料及びカード利用額に応じた提携手数料がカード発行元の北海道大学校友会エルムに還元され、これを「北大生支援資金」として北海道大学に寄附し、「奨学金」、「留学支援金」、「課外活動への費用援助」等に役立ててもらおうこととしています。

北海道大学カードが北大生を支援する仕組み

北海道大学カード



本学卒業生、教職員又は[※]在学生父母の方限定

※UCカードのみ

お問い合わせ先

北海道大学校友会エルム
電話：011-706-2101/2102
kouyukai@general.hokudai.ac.jp



北海道大学校友会エルム
HOKKAIDO UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION ELM

北海道大学ホームカミングデー2017 公開シンポジウム

芸術フロンティア北海道

豊かな世界をつくること—それが「アート」。



平成29年9月30日(土) 14:00-16:30

北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) 103室

司会 北村 清彦 (北海道大学大学院文学研究科 教授)

パネリスト 川上 佳津仁 氏(札幌市立大学 事務局長)「札幌市の文化芸術」

三浦 洋 氏(北海道情報大学情報メディア学部 教授)「北の音楽シーン」

早川 渉 氏(東海大学国際文化学部 特任講師)「北海道スタイルの映像制作とは」

近年、北海道各地において、音楽祭、映画祭、演劇祭、あるいは国際芸術祭などが開催されています。そういったなか、札幌市には平成30年10月に複合施設「札幌市民交流プラザ」がオープンする予定です。そこに設けられる「文化芸術劇場」は道内初の多面舞台を備え、オペラ、バレエなど、さまざまな舞台芸術に対応することができ、「文化芸術交流センター」では芸術活動の振興、交流、担い手の育成などが目指されています。また、札幌市はすでに「ユネスコ創造都市ネットワーク」に加盟し、メディア・アートを中心に国際的な芸術都市として発展していくことを標榜しています。

本シンポジウムでは、行政、芸術家、批評家(市民)それぞれの立場から多様な芸術活動の現状について、報告・提言していただくとともに、それが単なる中央の模倣に終わるものではないことを明らかにしてみたいと思います。同時に、長年にわたって、さまざまな芸術活動の分野に人材を輩出し、近年では道内外の美術館・博物館の専門職である学芸員に就くものも多く、その活躍の場を広げてきた北海道大学のこれからの役割についても展望します。

川上 佳津仁 (かわかみ かずひと) 氏

1983年北海道大学経済学部卒業、同年札幌市役所に奉職。北区役所を皮切りに、総務局、企画調整局、水道局、保健福祉局、市民文化局などを経て、2017年より公立大学法人札幌市立大学事務局長。本年3月まで文化部長として、PMF、シティ・ジャズ、演劇シーズンなどの文化芸術行政に携わる。文化部に在職していた3年間の経験から、札幌市の文化芸術の過去・現在・未来についての発表を予定。



三浦 洋 (みうら ひろし) 氏

1997年北海道大学大学院文学研究科(哲学専攻)博士課程修了。2000年より北海道大学非常勤講師、2004年より北海道情報大学メディア部准教授、2008年教授。専門および研究内容は、西洋古代思想を中心にし、行為論や美学など多様なテーマを研究。このシンポジウムでは、「キタラ開館20周年や来年秋にオープンする劇場など」と「北の風土と音楽の関係」などについての発表を予定。

早川 渉 (はやかわ わたる) 氏

映画監督。1964年名古屋生まれ。北大入学後、映画研究会に所属し、8ミリ映画の自主制作を開始。その後、札幌市内のCMプロダクションのディレクター。99年には16ミリ長編映画「7/25[nana-ni-go]」がカンヌ映画祭で高い評価。映像制作者として映画、CMなどを手がけ、東海大学国際文化学部の講師としても活躍。「中学生の映像ワークショップ事例からみる次世代の人材育成」を発表の予定。

